

検体検査（採尿・その他）

検査名称		基準値	説明	
尿検査	尿定性		化学的に尿中に含まれる物質を検出しています。	
	尿比重	1.005-1.030	腎臓での尿の濃縮や希釈の能力を知ること、腎臓の機能に異常がないかの指標となります。	
	尿PH	pH6付近	尿が酸性かアルカリ性を調べます。健康な人でも食べ物や運動、呼吸などで変動します。	
	PRO (尿蛋白)	(-)	腎臓や尿路系に障害があると陽性(+)になります。健康な人でも陽性となる場合があります。	
	GLU (尿糖)	(-)	血糖値が一定限界を超えると陽性(+)になります。	
	KET (尿ケトン体)	(-)	糖代謝異常の目安となります。	
	BLD (尿潜血反応)	(-)	腎臓や尿路系に障害があると、赤血球が出現し潜血反応が陽性(+)になります。	
	URO (尿ウロビリノーゲン)	(±)	肝臓や胆道の障害の有無を調べる検査です。健康な人でもわずかに出ています。	
	BIL (尿ビリルビン)	(-)	胆汁の排泄が障害されると陽性(+)になります。	
	WBC (尿白血球反応)	(-)	尿路系に炎症があると陽性(+)になります。	
	NIT (尿亜硝酸塩)	(-)	尿路系に細菌が増殖している場合、陽性(+)になることがあります。	
	尿沈渣（フローサイトメトリー法）			機械により尿に含まれる細胞などを数える検査です。
	RBC (赤血球)	5 個未満/HPF	腎臓や尿路系に障害があると、赤血球が増加します。	
	WBC (白血球)	5 個未満/HPF	尿路系に炎症があると白血球が増加します。	
	EC (上皮細胞)	※3	尿路系の炎症などで多くみられます。	
	CAST (円柱)	※3	蛋白質が固まった物質で、尿の流れが腎臓で停滞したことを示唆します。	
	BACT (細菌)	※3	尿路の感染症で増加します。	
	尿沈渣（鏡検法）			尿に含まれる成分を顕微鏡でみる検査です。細胞などの種類や数をみています。
	尿蛋白定量（新鮮尿） 尿蛋白定量（畜尿）	0-15 mg/dL	腎疾患の診断や治療効果を判定するのに役立ちます。	
	尿中アルブミン アルブミン指数	30 mg/g・CRE未満	腎糸球体障害の指標となり、糖尿病性腎症の早期発見に役立ちます。	
HCG（尿）	※2	妊娠し受精卵が発育すると大量に分泌されます。妊娠の診断と経過観察、流産や子宮外妊娠の補助診断などに用いられます。		
浸透圧（尿）	50-1300 mOsm/Kg H <sub>2</sub> O	腎臓における尿の濃縮・希釈能をみています。水分摂取量や運動量、季節などにより大きく変動します。		
尿中N-GAL	30.5 ng/mL以下	急性腎障害の診断に有用です。		
便	便ヘモ (便ヒトヘモグロビン)	(-) 100 ng/mL未満	大腸などの消化管の出血を見つける検査です。大腸がん、痔、ポリープなどで陽性(+)となる場合があります。	
髄液	リコール一般 (髄液検査)		脳脊髄液の性状を調べる検査で、その中に含まれる細胞の数や、タンパク質、糖の濃度を調べます。脳脊髄液1μL中に細胞が6個以上になると脳や髄膜になんらかの障害が起こっている可能性があります。主に髄膜炎、脳炎、ギランバレー症候群などの診断に用います。	
<p>※3）上皮は、女性の場合、外陰部や膣部から混入することがありますが、健常人ではほとんどみられません。細菌も同様に、健常人ではほとんどみられませんが、外尿道口や膣部から混入することがあります。円柱には、いろいろな種類があります。硝子円柱と呼ばれるものは、激しい運動後などには、健常人でもみられることがあります。病的とされる赤血球円柱や顆粒円柱などは、顕微鏡で観察し分類します。</p>				